

令和3年(2021)4月 入域観光客数概況

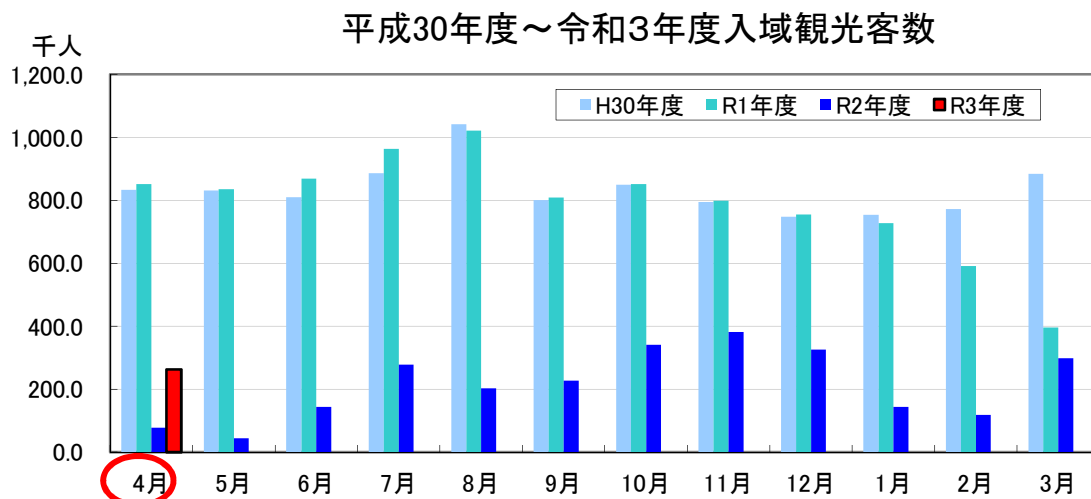
26万2,600人
 対前年(R2)同月比 +18万5,300人、+239.7%
 ～16ヶ月ぶりに対前年同月比で増加に転じる～
 ※対前々年(H31)同月比 △58万8,800人、△69.2%

入域状況

入域観光客数(令和2年度との比較) ※外国客については、乗務員等を含む

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
国内客	262,600 人	77,300 人	+ 185,300人	+ 239.7%	100.0%
外国客	0 人	0 人	△ 0人	皆減	0.0%
合計	262,600 人	77,300 人	+ 185,300人	+ 239.7%	100.0%

(参考)乗務員等を除いた入域観光客数 R3年度 262,600人 R2年度 77,300人



国内客 入域状況

4月は、前年同月が全都道府県が緊急事態宣言の対象であったことに対し、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言による移動自粛の要請が一部地域であった影響などから、前年同月を大きく上回った。しかし、前々年同月と比べると大きく下回っており、依然として厳しい状況である。

5月は、航空路線での運休・減便やGo Toトラベル事業の一時停止の継続、また、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

外国客 入域状況

4月は、台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域から、日本への入国制限措置がとられたことなどから、引き続き皆減となった。

5月は、日本への入国制限措置がとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

国内客 地域別入域状況

区分	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	136,900 人	35,700 人	+ 101,200人	+ 283.5%	52.1%
関西方面	53,300 人	15,900 人	+ 37,400人	+ 235.2%	20.3%
福岡方面	32,400 人	11,400 人	+ 21,000人	+ 184.2%	12.3%
名古屋	25,700 人	6,100 人	+ 19,600人	+ 321.3%	9.8%
その他	14,300 人	8,200 人	+ 6,100人	+ 74.4%	5.4%
合計	262,600 人	77,300 人	+ 185,300人	+ 239.7%	100.0%

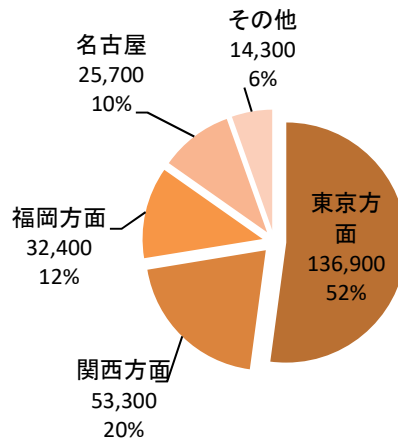
※国内海路客1,200人を含む(鹿児島1,200人)

外国客 国籍別入域状況

増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	R3年度	R3年度	R2年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
韓国	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
中国本土	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
香港	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
アメリカ	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
タイ	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
シンガポール	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
その他	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!
合計	0 人	0 人	0 人	△	0人	#DIV/0!

国内客の地域構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
韓国	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
中国本土	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
香港	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
アメリカ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
タイ	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
シンガポール	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
その他	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A
合計	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A	0 人	0 人	#DIV/0!	N/A

各方面ごとの概況と見通し

東京

4月は、減便規模の縮小や、前年同月では全都道府県が緊急事態宣言の対象であったことに対し、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が一部地域(東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県)であった影響などから、前年同月を上回った。

5月は、羽田-那覇路線などでの減便規模の拡大や、緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

関西

4月は、減便規模の縮小や、前年同月では全都道府県が緊急事態宣言の対象であったことに対し、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が一部地域(大阪府、兵庫県、京都府)であった影響などから、前年同月を上回った。

5月は、関西-那覇路線などでの減便規模の拡大や、緊急事態宣言が継続されている影響などから、厳しい状況が予想される。

福岡

4月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も小さかった。減便規模の縮小や、前年同月では緊急事態宣言の対象であったことに対し、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言の適用を受けなかった影響などから、前年同月を上回った。

5月は、福岡-那覇路線などでの減便規模の拡大や、緊急事態宣言が発令された影響などから、厳しい状況が予想される。

名古屋

4月は、主要方面別で対前年同月比の増加率が最も大きかった。減便規模の縮小や、前年同月では全都道府県が緊急事態宣言の対象であったことに対し、まん延防止等重点措置の適用が一部地域(愛知県)であった影響などから、前年同月を上回った。

5月は、中部-那覇路線などでの減便規模の拡大や、緊急事態宣言が発令された影響などから、厳しい状況が予想される。

台湾

4月は、台湾(台北、台中、高雄)-那覇の3路線が全て運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。

5月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

韓国

4月は、韓国(ソウル、釜山、大邱)-那覇の3路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。

5月は、航空路線の運休や日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

中国本土

4月は、中国(上海、杭州、南京、重慶、青島)-那覇の5路線が全て運休になっていること、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。

5月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。

香港

4月は、香港-那覇路線が運休になっていることに加えて、日本への入国制限措置が継続されたことなどから、前年同月比で皆減となった。

5月は、航空路線の運休やクルーズ船の運航停止、日本への入国制限措置が引き続きとられていることなどから、厳しい状況が続くと予想される。